

令和4年4月1日

令和4年度 学校経営方針

府中市立府中第六中学校

校長 相馬 朋行

1 はじめに

創立57年の歴史と伝統を継承しつつ、新しい生活様式を適切に取り入れ、時代の最先端を担う教育活動を推進する。

六中スローガンとして「信頼と思いやり」を掲げ、「あいさつの学校」「ボランティアの学校」「合唱の学校」を特色とした学校づくりを行い、生徒の愛校心を醸成する。

近隣の府中第四小学校、小柳小学校、南白糸台小学校と連携・協働し、9年間の見通しをもって ①主体的に学習し、学び合う児童・生徒 ②自他を大切にし、思いやりのある児童・生徒 ③心身ともに健康で、地域の中で活躍する児童・生徒 の育成を図る。

2 教育目標

- 学力と情操
- 健康と忍耐力
- 勤労と責任

3 目指す学校像

- ・保護者が信頼を寄せ、生徒が安心して通うことができる学校
- ・教育課題の解決に向けて教職員が一丸となって取り組む学校
- ・地域と強いきずなで結ばれ、地域とともに歩む学校

4 目指す生徒像

- ・自己実現に向けて全力で取り組む生徒
- ・思いやりと感謝の気持ちをもつ生徒
- ・他者との協力・協働を通して自己を高め、日々成長する生徒

5 目指す教師像

- ・専門職としての誇りをもち、日々自己研鑽に励む教師
- ・使命感にあふれ、情熱をもって物事に取り組む教師
- ・ともに汗を流し、切磋琢磨する教師

今年度重点的に取り組むこと

1 生徒の健全育成に向けた教育活動の充実

- ・生徒に夢・希望をもたせる教育を実践する。
- ・主体的・対話的で深い学びを実践し、学びの意欲を向上させる。
- ・ICT機器を有効に活用し、分かる授業を実践する。
- ・人権教育を推進し、思いやりの心を育成する。
- ・考え、議論する道徳の実践を通して道徳教育の一層の充実を図る。
- ・特別活動を充実させ、生徒の自己肯定感を高める取組を実施する。
- ・特別支援教室の拠点校の特質を生かし、特別支援教育の一層の充実を図る。
- ・生徒一人一人への丁寧な支援を行い、不登校の解消を図る。
- ・コロナ禍において生徒に充足感を与えるために全校体制で教育活動を推進する。

2 校内組織の活性化

- ・それぞれの部会・委員会において学校経営上の役割を明確にするとともに、それぞれの部会・委員会が互いに連携しつつ、学校の教育活動全体が円滑かつ効果的に行われるよう業務を企画・立案し、運営する。
- ・運営委員会を学校経営の中核として位置付け、校長が毎週招集する。運営委員会では職員連絡会に提案する議題を精査するとともに長期的な展望に立って検討すべき課題について対応策を講じる。
- ・学校いじめ対策委員会を毎週開催し、いじめ撲滅を目指す。
- ・校長及び副校長の補佐機関として主幹会を組織する。毎朝定例的に開催するが、緊急時は校長の判断で招集し、喫緊の課題の解決策を検討するとともに周知を図る。

3 教員研修の充実と教員の資質向上

- ・校内研修を計画的に実施し、授業改善や生徒理解を推進する。
- ・服務研修を各学期の始めと終わり実施し、服務遵守の徹底を図る。
- ・府教研に積極的に参加するとともに教科部会を充実させ、授業力の向上を目指す。

4 地域、保護者に関われた学校づくり及び近隣小学校との連携の強化

- ・伝統的な地域行事への教員・生徒の積極的な参加を通してふるさと府中を知るとともに地元の人々との交流を図り、地域の一員として生徒の意識を醸成し、育成する。
- ・学校だよりや学校公開等を通して生徒の活躍する姿を披露し、地域や保護者に関われた学校を目指す。
- ・生徒会・児童会の交流を通して近隣小学校と連携し、9年間継続した教育活動を実践する。

今年度の取組目標

1 学習指導

- ・持続可能な社会づくりの担い手として自ら課題を解決する資質・能力の育成を図るため、「主体的・対話的で深い学び」を計画的に授業の中に取り入れる。
- ・授業において、「本時のねらい」と「本時のまとめ」を明示し、「振り返りと見通し」を計画的に行い、分かる授業を実践する。
- ・生徒用タブレットパソコンなどのICT機器を効果的に活用し、「学びに火をつける」効果的な課題を提示することで生徒の学習意欲の向上や学びの深化を図る。
- ・数学習熟度別少人数授業、英語習熟度別少人数授業を通じて生徒一人一人の特性を理解し、指導内容を工夫し学力向上を図る。
- ・家庭学習の課題を適切に設定することで家庭学習の習慣付けを図るとともに基礎学力を充実させ、応用力を養い、各調査における市、都、全国平均を上回る。

2 生活指導・進路指導・道徳教育等

- ・府中六中スローガン「信頼と思いやり」を実践するため、他人を思いやる気持ちの育成を図り、思いやりに対する生徒アンケートの肯定的評価 90%以上を目指す。
- ・様々な場面においてあいさつを励行し規範意識を高めるとともに、あいさつに対する生徒アンケートの肯定的評価 95%を目指す。
- ・「学校いじめ防止基本方針」に元基づいて毎月生徒の学校生活の様子を調査し、いじめや問題行動の早期発見と早期解決を目指し、いじめや暴力への指導、並びに教員の生徒の悩み相談に対する生徒アンケートの肯定的評価 90%を継続する。
- ・一人一人の個に応じた進路に向けた取組の充実を図るため、進路指導部を中心として全校体制で進路指導を推進する。
- ・考え、議論する道徳を実践するとともにあらゆる教育活動で道徳教育を推進し、多様な価値観を共有し豊かな心をもった生徒を育成する。
- ・図書室、学級文庫の充実を図り、読書に親しむ生徒を育てる。

3 特別活動

- ・体育的・文化的行事における生徒の主体的な活動を進め、行事に対する仲間との協力や積極性の肯定的な評価 90%を目指す。
- ・生徒会役員会を中心とし、生徒の委員会活動の活性化、充実を図り、委員会、係活動の積極性に対する肯定的評価 90%を目指す。
- ・地域ボランティア活動への積極的な参加を促すことでボランティアマインドを養う。地域ボランティアへの生徒参加者の延べ人数100人以上を目指す。
- ・音楽の授業、朝礼、学校行事等を通じて歌唱指導を充実させ、愛校心を育む。

4 学校組織の活性化・教員の資質向上等

- ・校内研修会においてICT機器の活用に関する指導方法や授業改善方法、指導と評価の一体化等について研修するとともに年間3回授業研究を実施し、授業力向上を図る。
- ・特別支援教育校内委員会を週1回開催し、特別な配慮を必要とする生徒について支援の具体的方法を検討し、個に応じた指導の充実を図る。
- ・特別支援教室拠点校として巡回校との連携を深め、巡回指導の充実を図るとともに、特別支援教育へのさらなる効果的な実践に向けてユニバーサルデザインの視点に基づく学習環境の整備に取り組む。
- ・生活指導部会を週1回開催し、不登校生徒の情報交換を行い、家庭との連絡を密にするとともに関係機関と連携して登校に向けて支援する。不登校の出現率3%以下を目指す。
- ・主幹教諭、主任教諭による組織的なOJTを推進し、若手教員の人材育成を図る。
- ・定期的に服務研修を行うとともに随時服務に関する指導を行い、服務事故を撲滅する。
- ・勤務時間の管理及び校務の改善により働き方改革を推進し、すべての教員の週当たりの在校時間を60時間以内とする。

5 保護者・地域や近隣小学校との連携

- ・学校ホームページを通して開かれた教育課程を実践し、学校の情報を積極的に提供するとともに学校公開や学校アンケートを活用して保護者・地域の意見を収集し、学校の教育活動に反映させる。
- ・近隣小学校と協働して児童・生徒の交流を行い、義務教育9年間を見通した児童・生徒の育成を図る。
- ・ふるさと教育の視点から生徒・教員の地域行事への参加を計画的に行い、地域の方々との交流を図る。生徒一人一人に地域の一員としての自覚をもたせ、災害時には自発的に行動する人間に育てる。
- ・スクールコミュニティ協議会と連携し、地域とともに育てる生徒の視点を重視した教育活動を展開する。
- ・PTAとの適切な関係を構築し、連携を取りながら学校の教育活動を推進する。